

# コロナ禍での地域の交流活動

## 大分県中津市 耶馬溪ジュニア・ボランティア・リーダー

### 1. 耶馬溪ジュニア・ボランティア・リーダーとは

耶馬溪ジュニア・ボランティア・リーダー（以下、ジュニア）は、平成3年に当時の耶馬溪町役場の職員の考案によって設立された中高生の団体です。少子高齢化が進み、耶馬溪町を若いチカラで盛り上げるべく、多方面にわたって活動しています。主な活動はボランティアの名がつくとおり、町内で開催されるイベントの運営や募金活動、交通安全運動といったボランティアです。また、ボランティア活動のほか、聴覚障害者の方々と交流をはかるため、手話学習にも積極的に取り組んでいます。毎年、イベントや学校の音楽会等で披露しています。地域の方々からはジュ



交通立哨

ニアの愛称で親しまれており、耶馬溪町にとってなくてはならない存在となりました。



祭りでジュースを売るジュニア



### 2. 令和2年度の活動

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中津市内のイベントや事業が軒並み中止もしくは規模縮小して開催という事態に陥りました。ジュニアの活動も例外ではなく、例年どおりの活動ができない状況でした。そこで子どもたちは皆で知恵を振り絞りコロナ禍だからこそできることは何かあるか必死で考えました。

#### (1) 婦人会との世代間交流

コロナ禍で活動がなかなかできない中、耶馬溪町地域婦人団体連合会の方より、一緒に何かできないかと声をかけられ、同じ耶馬溪町で活動する団体同士、協働して活動することになりました。

耶馬溪町地域婦人団体連合会は、地域のために子育て支援や高齢者の見守り活動、自然災害・防災に関わる学習と組織作りへの参画に取り組んでいる団体です。毎年、高齢者施設に訪問し歌やダンスなどレクリエーションを通して、交流を図ったり、新生児へ絵本をプレゼントしたりと幅広く活動しています。

両団体の関係者で、コロナ禍でできる地域活動について協議を重ねたところ、ジュニアリーダーと婦人会の活動を組み合わせ、手話コーラスのビデオレターを高齢者施設に届ける活動と新生児を持つ家庭への絵本の贈呈を

通した子育て支援を計画しました。

#### ① 手話コーラスのビデオレター作成

手話の講師として、大分県聴覚障害者協会の先生を招き、指導をお願いしました。曲目は、2020年のNHK連続テレビ小説になった「エール」の主題歌、Greenzの『星影のエール』です。ジュニアリーダーの提案で、幅広い年齢層でも馴染みのある曲目にしたいとのことで、選曲しました。

まずは、ジュニアと婦人会で別々に練習し、手話の意味をお互い理解した上で、合同練習を何度か設け、交流を深めていきました。合同練習では、婦人会の方とジュニアでグループを作り、手話に慣れているジュニアが率先して手話の意味やコツを教えました。婦人会の方も若い世代に負けじと自宅で個人練習をしたそう、本番前の練習ではリズムミカルに手話コーラスをしていました。

本番では、中津市の地域おこし協力隊にビデオレターのための撮影と編集をお願いしました。

撮影当日、ドローンなど最新器具を使い、シーン別に風景を変えながら撮影しました。シーンの中には、ジュニアと婦人会の方がペアとなり、高齢者施設の利用者さん向けメッセージを伝えました。

完成したビデオレターは、婦人会のメンバーが代表して、高齢者施設に届けてくれま



手話コーラス・ドローンを使い撮影する様子



手話コーラス・婦人会の方に教えるジュニア

した。後日利用者の方から、感謝の手紙やビデオレターを見ている様子の写真などが送られてきました。以下、感想の一部です。

『ビデオレターを拝見した瞬間、感動と感謝の気持ちで一杯になりました。手話見事でした。メッセージは思いやり直球でした。素敵なプレゼント有難うございます。』

『みなさまからの“エール”がとても励みになりました。次はぜひ、直接お会いしたいです。』

ジュニアリーダーたちにいただいた感想を伝えると、自分たちの活動が実際に役に立っているという実感が湧いた様子でした。

## ② 新生児へ絵本プレゼント

例年、婦人会で新生児のいる家庭に絵本をプレゼントしています。今回は、若い世代のジュニアリーダーが、子どもの頃、実際に読んだことのある絵本を紹介し、新生児にプレゼントしようという企画です。ワールドカフェ方式で少人数に分かれたテーブルでジュニアが絵本を紹介し、他のテーブルとメンバーをシャッフルしてまた紹介し

ていきました。最初のテーブルでは、恥ずかしがってうまく発表できなかったジュニアも何回も繰り返すことで、上手に発表ができていました。

ジュニアリーダーにとって、婦人会の方に絵本を紹介することで、自己表現力を高めることができました。

## (2) 耶馬溪魅力発見隊プロジェクト

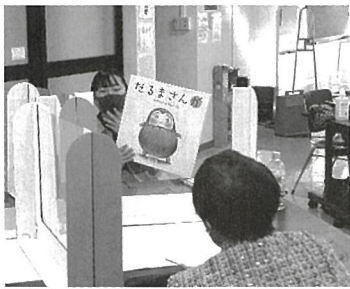
コロナ禍に自分たちに何ができるのかを話し合った結果、コロナ禍で耶馬溪を訪れる人が少なくなった今、終息後にはまたお客さんに帰ってきてもらいたいという気持ちをこめて、耶馬溪の良さを外の人に発信していくことになりました。

耶馬溪のスポットについて発信していくメンバーとグルメについて発信していくメンバーに分かれ実際に足を運び、経営している人にジュニアが直接インタビューをし、模造紙にまとめました。模造紙は、中津に来た人がまず訪れるであろう「道の駅なかつ」の休憩室に飾らせてもらいました。

この活動を通して、ジュニアたちは、ふるさとである耶馬溪の良さを再発見することができました。またインタビューを通して、地元の人とつながりができ、地域を身近に感じることができました。

(中津市耶馬溪支所地域振興課 主事

市川知佳)



婦人会の方に絵本を紹介するジュニア

人数に分かれたテーブルでジュニアが絵本を紹介し、他のテーブルとメンバーをシャッフルしてまた紹介し



模造紙を「道の駅なかつ」に展示



インタビューをするジュニア